

平成31年度学校自己評価システムシート(埼玉県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	自立する力を育て、一人一人の児童生徒を伸ばし、保護者や地域の期待に応える学校
--------	--

重点目標	1安全な学習環境を整え、「R-PDCA」のサイクルに基づく充実した授業づくりを行う。 2保護者との連携、本校教育の情報発信、地域資源の活用等で、開かれた学校づくりを行う。 3教職員の特別支援教育に関する専門性を向上させ、教育力向上の基盤づくりを行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年度評価(2月1日 現在)			
年 度	目 標	学 校	自 己	評 価	達成状況	達成度	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは、教育支援プランに基づいた指導支援、分かりやすく意欲を高める指導、教材教具の工夫等について高い評価を得ている。 個々の教育実践においては、さらに児童生徒一人一人の実態に応じた指導を行うために、個々の学習や生活の状況、発達や障害の状態についての客観的な事前の評価(リサーチ)を大切に「R-PDCAサイクル」の推進が課題となっている。 12年間のキャリア教育の指標となる「時期のおさえ」を作成した。引き続き小中高の系統性・発展性のある指導が課題である。 学習指導要領の改訂に向けた研修を進めている。児童生徒の多様な実態に応じた教育課程について、各類型における具体的な解決が求められる。 学校教育目標と目指す学校像について今年度中の完成を目標に検討を始めている。 寄宿舎においては学校との連携により児童生徒の自立に向けた指導支援が行われている。 ヒヤリハット事例の共有や事故事例の共有を行っている。未然に防ぐために共通理解を広げることが必要である。 大規模災害時の引き取り訓練を計画している。 	(1) 児童生徒の実態把握を踏まえたR-PDCAサイクルに基づく充実した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①授業づくりにおいて、児童生徒一人一人の心身の発達や障害の状態について、客観性や根拠に基づいた実態把握を行う。 ②研究部を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究授業ならびに研究協議を計画的に実施し、授業改善の視点を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業づくりにおいて目的と手段を明確にした指導を行い、客観的に児童生徒の成長を評価することができたか。 ②研究授業及び研究協議を通して、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を行い、成果を共有することができたか。 ※教員対象アンケートを実施して評価に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ達成できた。 ①各指導グループにおいて支援プランを活用し、児童生徒の実態を把握し共通理解を図って指導ができた。また、常時情報交換を行い授業の改善ができた。 ②研究授業をとらえて「主体的・対話的で深い学び」の捉え方を教員一人一人が考え、実践することができた。研究協議を行い評価、改善、成果について学部を超えて共有することができた。 	A	
		(2) 各教科等の内容やキャリア発達との関連をもたせた指導計画及び教育課程の作成	<ul style="list-style-type: none"> ①学部間交流等の研修を実施し、全教員が12年間の教育活動の見直しをもてるようにする。 ②指導計画や学習指導案等に、学習指導要領の内容との関連、キャリア段階における目指す姿などの指標を示す。 ③教育課程検討委員会を中心に、各類型の教育課程に関する課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①他学部の教育活動について理解を深めることができたか。 ①学部間交流を行い、学部の状況や授業のねらい等を現場で確認することができた。訪問教育において学部を超えたTTによる指導を実施することができた。 ②指導を計画する際は学習指導要領を確認し関連した授業を実施した。 ③類型Ⅲにおいて著作教科書を使用する等、実態に応じた指導ができた。教育課程検討委員会のWGで検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね達成できた。 ①学部間交流を行い、学部の状況や授業のねらい等を現場で確認することができた。訪問教育において学部を超えたTTによる指導を実施することができた。 ②指導を計画する際は学習指導要領を確認し関連した授業を実施した。 ③類型Ⅲにおいて著作教科書を使用する等、実態に応じた指導ができた。教育課程検討委員会のWGで検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全ての教員が交流に参加できるようにグループの指導体制の調整を計画的に進める。 ②「時期のおさえ」を活用する。行事の精選について検討を行う。 ③児童生徒の実態に合うように、指導計画と教科書の選定を行う。校内教科書展示会を行い適切な選定を進める。 	B
		(3) 学習環境の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ①安全点検や事故事例、ヒヤリハット事例から誘因や予防策を共有し、再発防止のための対策を実行する。 ②緊急時対応や災害対策について個々の児童生徒を想定して常に見直し、改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①安全点検や事故事例から予防策を講じ、事故を未然に防ぐことができたか。 ②緊急対応訓練や防災訓練等の実施後、随時反省を行いマニュアル等の改善をすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ達成できた。 ①毎朝の学部朝会及びグループの打ち合わせにおいてヒヤリハットの確認と学部を超えた情報の共有ができた。 ②緊急対応訓練を具体的な事例をあげて行った。児童生徒の二次避難訓練と保護者を対象とした引き渡し想定訓練を行い防災意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続きヒヤリハットの情報共有を行い事故の防止に努める。 ②大規模災害に備えて避難訓練と保護者への引き渡し訓練を児童生徒の安全確保に努める。緊急連絡体制を整備する。 	A
2	<ul style="list-style-type: none"> 校外ホームページは保護者からの評価が低い。 交流会を実施し本校及び本校の児童生徒についての理解を広めている。高校生や大学生等の活用について検討の余地がある。 支援籍学習や外部支援の取組みは定着している。 地域資源の活用について掘り起こしが必要である。 月例学校公開や医療的ケア地域連絡協議会等を実施し、本校教育活動の周知を行っている。 寄宿舎では日常的に地域に便りの配布を行い、存在をアピールしている。また若竹祭等の行事を行い、卒業生や保護者、地域との交流を行っている。 	(1) 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ①個別面談や授業参観、日常の情報交換等、保護者とのコミュニケーションを大切にする。 ②児童生徒の教育支援について分かりやすい説明を工夫し、責任ある説明ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②学校と保護者が共通理解をもって教育支援にあたり、児童生徒の成長の喜びを共有することができたか。 ※保護者アンケートを実施し評価に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ達成できた。 ①保護者との連携を密に行った。保護者の意見を丁寧に聞き取り、ニーズに合わせた対応を行うことができた。 ②面談や説明会をとらえて授業や指導についての理解を得た。 	A	
		(2) 本校教育活動の周知や地域人材活用等の開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①本校ホームページに、鮮度の高い教育活動の情報を速やかに周知する。 ②運動会や文化祭等の行事でリーフレットを配布するなど、地域の人材などの資源の情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページを活用して保護者や閲覧者に有意義な情報を提供し閲覧回数を増やすことができたか。 ②地域の人材活用を広げ教育活動を充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね達成できた。 ①各学部の行事終了後、速やかに活動の様子を校外HPに掲載することができた。HPを活用して連絡事項を発信した。 ②高等部では地域の高校生、大学生との交流を行うことができた。ロータリークラブとの連携し、海外に学習作品を出品した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPを活用し、児童生徒の活動、授業や行事の様子、学校からの連絡等、適時新鮮な情報を提供していく。 ②ALTの確保、学習活動の協力人材バンクの作成等を行い教育活動の充実を努める。 	B
3	<ul style="list-style-type: none"> 新転任の教職員も多く、全体として特別支援教育の専門性を向上させ、学校の教育力を高める必要がある。 教職員数が多く、互いに協力し合いチーム力を高め維持することが必要である。 学校における働き方改革が求められており、ワークライフバランスの確保が課題である。 	(1) 教職員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①外部研修への参加を積極的に推奨する。校内への還元ができるよう情報共有を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①長期休業期間等に積極的に研修できたか。その情報を共有することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ達成できた。 ①校内HPを活用し外部研修の開催について周知した。コース別研修を実施し、教員のニーズに合った校内研修を行った。 	A	
		(2) 学校の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①各会議や指導単位ではチームを中心に教員間のコミュニケーションを促進し、チーム力を高める。 ②各教職員は公務員としての自覚をもち、相互にワークライフバランスを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①活発で効果的な会議運営や指導グループ運営ができたか。 ②教育公務員としての服務規律を守り、ノー残業デー、ふれあいデー等の取り組みを行えたか。 ※教員対象アンケートを実施して評価に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね達成できた。 ①主事、副主事、類型主任、グループリーダーが中心となり、教員間の連携が取れている。 ②ノー残業デーやふれあいデーを意識して計画的に会議日程を組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グループ内でのコミュニケーションを大切にし、主事等を中心に組織で対応する体制づくりを行う。 ②ノー残業デー等の呼びかけを継続し、ワークライフバランスの意識向上に努める。 	B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果から、おおむね教育活動は良好であると思われる。 「学校は好きですか」の項目の評価が高かったことはよいことである。来年度はさらに、どこが好きかを回答する項目を追加するとよい。 本校の強みは、小、中、高、寄宿舎があることである。小→中→高の流れができてきていることはいいことだ。卒業後に地域へどのように託すかまでつながるとよい。 危機対策について、着実に整備されてきている。 教員の異動が多く専門性を高めることが難しいと思う。医療的ケアの対象児も多い。専門性を継承してほしい。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションは大切である。子供を中心とした連携を意識するとよい。 保護者間の連携が課題である。学校は保護者と保護者の関係をつなぐ役割もあると思われる。 引き続きホームページを活用して情報を発信していくとよい。 <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育実習生や介護等体験の実習生の受け入れ等、人材育成の役割を担っている。 学校のイメージとして「安全」であることが大切である。介助や摂食指導について理解を深めるとよい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの内容の見直しを行い、質的な分析が行えるとよい。 避難訓練等、災害時に対する備えを進める。 	

